

USB BARScan

Operation Manual

 **株式会社テクニカル**

<http://www.technical.jp/>

はじめに

この度は、USB BARScan をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。
ご利用に際しては、説明書をお読みの上、正しくお使いください。

<< 注意 >>

本装置は、FCC規格の15種類に従ってクラスAに適合した情報技術装置です。
これらは、商業環境で操作されるときに対する保護を目的に設計されています。
本装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こす場合があります。
この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう請求される場合があります。

ご注意

1. 本書の内容の一部または、全部を当社に無断で転載あるいは、複製することは法令に別段の定めのあるほか固く禁じられております。
2. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更する場合があります。
最新につきましては、以下のホームページよりご参照願います。
<http://www.technical.jp/usbbarscan/>
3. 本書の内容については、万全を期して作成を行いましたが、万一ご不審な点や誤り等にお気づきの事がありましたら、**usbbarscan@technical.jp** までメールにてご連絡願います。
4. 本装置を運用した結果につきましては、上記3項目にかかわらずお客様の損害、逸失利益、または、第三者のいかなる請求につきましても当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

※本書に記載される商品名、会社名は各社の商標、または登録商標です。

もくじ

1 概要	3
操作方法.....	3
特殊な設定.....	3
設定手順.....	4
出力データフォーマット.....	5
工場出荷設定.....	6
設定用ラベルレイアウト.....	7
よくある質問.....	8
補助機能.....	9
2 キーボードインターフェイス	10
3 システム制御	14
4 バーコード設定	19
UPC-A.....	19
UPC-E.....	21
EAN-13 (JAN-13) (ISBN/ISSN).....	23
EAN-8 (JAN-8).....	25
CODE 39 (CODE-32).....	27
Interleaved 2 of 5 (Odd S-code).....	29
Industrial 2 of 5.....	31
Matrix 2 of 5.....	33
China Post 2 of 5.....	35
Codabar/NW7.....	37
Code 128.....	39
Code 93.....	41
Code 11.....	43
MSI/Plessey.....	45
UK/Plessey.....	47
IATA.....	49
Telepen.....	51
5 出力データ形式	53
プリアンブル/ポストアンブル.....	53
プリフィックス/サフィックス.....	54
文字挿入.....	55
情報の付加.....	57
CODE 39フルアスキー対応表.....	58
数値設定用コード.....	59
アスキーコード表.....	59
6 テストコード	60
テストコード1.....	60
テストコード2.....	61
7 FAQ	62
利用方法編.....	62
バーコード編.....	63
読み取り動作編.....	64
その他.....	67

操作方法

- 1) スキャナーを接続する際には、必ずパソコンの電源を切った状態にて行ってください。
USBのコネクタには向きがありますので、スキャナーが正しく接続されていることを確認してください。
- 2) パソコンの電源を入れると、接続されたスキャナーより起動を知らせる音が鳴り、スキャナー上部のLEDが点灯することにより、正常に起動されたことが通知されます。
- 3) スキャナー下部に用意されたトリガースイッチ（読み込み開始ボタン）を押すことにより、走査線の赤い光が点灯します。
この状態で、バーコードに近づけることにより、バーコードの内容が読み取られ、パソコンに通知されます。
正常にバーコードが読み込まれた場合には、音と上部のLEDで通知されます。

※正常に動作しない場合には、パソコンの電源を切り、接続状態を検査してから、上記手順にて再度確認して下さい。

特殊な設定

本製品は、工場出荷状態でご満足の頂ける設定にて出荷しておりますが、特殊な設定を行いたいときには、本説明書にて説明を行っております各種設定を行ってください。
設定に際して、必要なページを**A4**にて印刷をした上、ご利用ください。
設定された内容は、**設定保存終了**ラベルを読み込んだ時にバーコードリーダに記憶されます。
この設定内容は、電源が切断されても保持されます。

- 1) 現在の設定内容は、**P9**のバーコードを読むことにて参照可能です。
- 2) 2章にはキーボード関係の設定があります。
- 3) 3章には2重読みの防止設定や、トリガースイッチ設定・音や各種時間の設定が用意されています。
- 4) 4章には各種のコードに関する設定があります。
必要に応じて各コードの読み込みの可（有効）・不可（無効）を設定可能です。
有効にする場合には、最小・最大の長さやチェックサム関係の設定も忘れずに行ってください。
- 5) 5章にはアプリケーションで読み込んだバーコードに情報を付加させて通知したい場合に利用する設定が用意されています。
読み込んだバーコードの種類や、バーコードの前後に付加させた文字等の設定を可能とさせます。

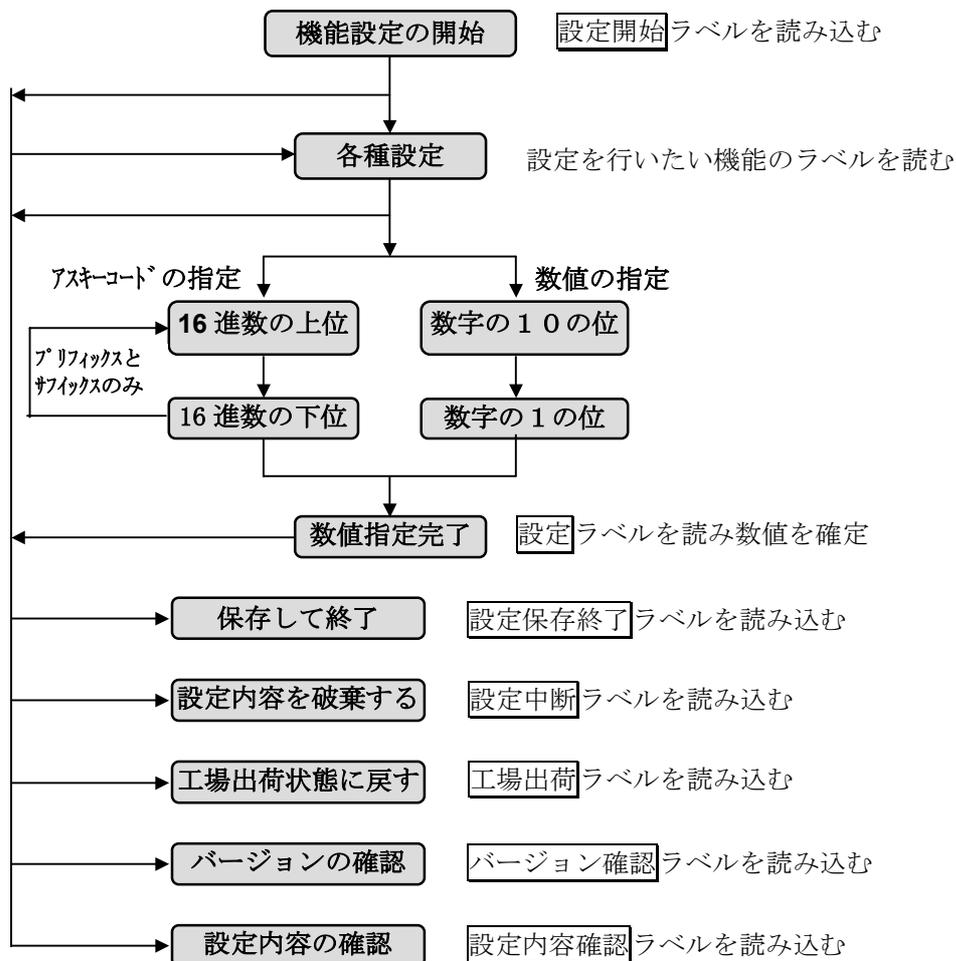
※設定に誤りのある場合には、スキャナーが5回のエラー音を鳴らします。
誤りを修正してもう一度設定を行ってください。

※正しく動作しない場合には、usbbarscan@technical.jpまでメールにてお問い合わせ願います。

設定手順

以下の操作流れ図で示す手順にて設定を行ってください。

- 1) 設定を行いたいページをA4版にて印刷する。
拡大しての印刷は、設定用バーコードの誤読につながりますので、極力行わないで下さい。
- 2) 機能設定開始をスキャナーに通知する **設定開始** ラベルを読み込む
- 3) 設定したい機能のラベルを読む (必要によりオプションを読む)
- 4) 設定終了をスキャナーに通知する **設定保存終了** ラベルを読む

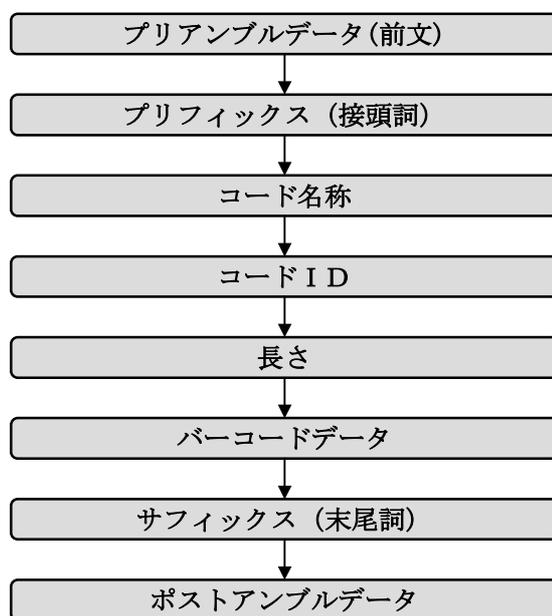


※設定を行っている最中にわからなくなってしまった場合には、**工場出荷**ラベルを読み読み設定内容を工場出荷状態に戻して、最初から行う事をお勧めいたします。

出力データフォーマット

本装置では、読み込んだバーコードの前後にアプリケーションにとって必要なデータを付加させることが可能となっております。

各設定項目は、以下の順にて読み込んだバーコードデータの前後に付加されパソコンへ通知されます。



※工場出荷時には、バーコードデータとポストアンブルのみの通知となっております。

ポストアンブルデータは、<CR>(0D₁₆) と <LF>(0A₁₆) が設定されています。

工場出荷設定

本装置は工場出荷状態にて、以下の内容が設定されております。
また、初期値に戻した場合は、この内容に初期化されます。

■各コードに関する設定内容

コード種類	読込有効	長さ		ゼロサプレス		コード I D
		最小	最大	前半	後半	
UPC-A	✓	—	—	OFF	OFF	A
UPC-E	✓	—	—	OFF	OFF	E
EAN-13(JAN-13)	✓	—	—	OFF	OFF	F
EAN-8(JAN-8)	✓	—	—	OFF	OFF	FF
Code-39	✓	0	OFF	OFF	OFF	M
Interleaved 2 of 5		6	OFF	OFF	OFF	I
Industrial 2 of 5		4	OFF	OFF	OFF	H
Matrix 2 of 5		4	OFF	OFF	OFF	G
China Post 2 of 5		11	11	OFF	OFF	J
Codabar/NW7	✓	4	OFF	OFF	OFF	N
Code-128	✓	OFF	OFF	OFF	OFF	K
Code-93		4	OFF	OFF	OFF	L
Code-11		4	OFF	OFF	OFF	O
MSI/Plessey		4	OFF	OFF	OFF	P
UK/Plessey		4	OFF	OFF	OFF	R
Telepen		4	OFF	OFF	OFF	S
IATA		4	OFF	OFF	OFF	Q

■各種設定内容

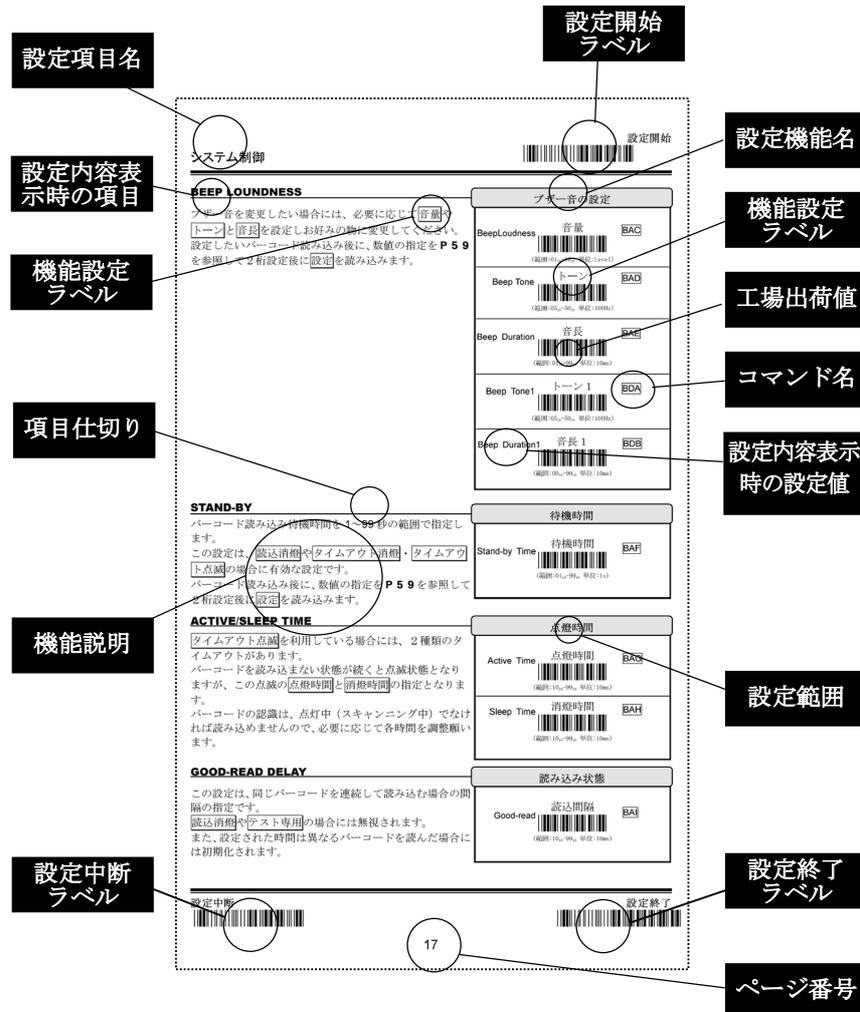
機能内容	設定値	設定内容
Beep Loudness	05	Level 5
Beep Tone	24	2.4 KHz
Beep Duration	06	60 mSec
Beep Tone1	12	1.2 KHz
Beep Duration1	06	60 mSec
Stand-by Time	15	15 Sec
Active Time	20	200 mSec
Sleep Time	20	200 mSec
Good-read Delay	50	500 mSec
Double Confirm Times	01	Once
Inter-char. Delay	01	1 mSec
Transmit Delay	00	0 mSec
Response Delay	30	3 Sec
Add-on Wait Time	50	500 mSec
Margin Delay	10	100 mSec
Preamble Data1	00 ₁₆	<NULL>
Preamble Data2	00 ₁₆	<NULL>
Postamble Data1	0D ₁₆	<CR>
Postamble Data2	0A ₁₆	<LF>
Prefix Data (All Datas)	00 ₁₆	<NULL>
Suffix Data (All Datas)	00 ₁₆	<NULL>
Add-on Insertion (All Datas)	00 ₁₆	<NULL>
Insertion1-4 (Position & All Datas)	00 ₁₆	<NULL>
Concatenation Data	29 ₁₆	<GS>

設定用ラベルレイアウト

スキャナーの全機能設定は本書のバーコードラベルを読み込むことにて行います。以下の設定ページレイアウトを参考にして必要なページを **A 4** にて印字した上、読み込んで設定願います。

設定手順は、以下の通りです。

- 1) 機能設定開始をスキャナーに通知する **設定開始** ラベルを読み込む
- 2) 設定したい機能のラベルを読む (必要によりオプションを読む)
- 3) 設定終了をスキャナーに通知する **設定保存終了** ラベルを読む



※工場出荷値は、設定ラベル右上に★を記述してあります。

よくある質問

Q: 正しく読まれたビープ音がなりますが、パソコンにデータが表示されません。

A: **P 9**に記載されている **設定内容確認**ラベルを読み込み設定内容を確認してください。
それでもわからない場合には、**工場出荷**ラベルを読み込み工場出荷状態に戻して試してください。

Q: バーコード読み込み後に付加される改行コード(<CR><LF>)を取りたいのですが？

A: **P 53**に記載されている **ポストアンプ**の設定より**無効**ラベルを読み転送を禁止してください。

Q: 数字 1 文字のバーコードを読みたいのですが？

A: 4章を参照していただき、読み込みたいコードの最小文字数を“01”に設定してください。

Q: バーコードが誤って通知された場合に、何を讀んだか知りたい。

A: バーコードの誤読になりますので、以下の対処で可能性を減らしてください。

P 57に記載されている **コード名の転送**より**有効**ラベルを読み転送を開始して、再度読み込みを行うと、読み込まれたバーコードの前に読み込まれたバーコードの種類が文字列に通知されます。

通知されたコードが読み込む必要が無い場合には、対応したコードの設定にて読み込みを無効にしてください。

また、コードが正しい場合には、チェックサム等の設定にて誤読を防ぐ手助けをしてください。
バーコードの印字品質によっては、誤読される場合があります。

Q: 読み込んだバーコードのデータが非常に遅くパソコンに表示され、一部のキャラクタをこぼす場合

A: **P 10**に記載されている **Caps Lock** より **Alt+Keypad**ラベルを読み込み設定して試してください。

それでも同じ場合には、同じページ上段のキー転送速度より、**中速**か**低速**ラベルを読み込み確認してください。

Q: バーコードを読むことにより、アプリケーションにファンクションキーを通知したい場合

A: **P 10**に記載されている **ファンクションキー操作**より**有効**ラベルを読み込んで設定してください。

スキャナーは、ファンクションキーの転送を擬似する動作となります。

これは、アスキーコードの **00₁₆** から **1F₁₆** に割り当てて転送しています。

キャラクタテーブルの詳細は、**P 59**を参照してください。

その他のよくある質問をFAQとして**P 62以降**に記載しております。

実際のお客様から頂いたご質問をもとにした回答集となっておりますので、ご参考になると思います。

最新の内容は、以下のURLをご参照ください。

<http://www.technical.jp/usbbarcode/faq.html>

設定開始

補助機能**DEFAULT SETUP**

全ての設定を本書の太字で記述した初期値にもどします。右上の**設定開始**ラベルを読み込んだ後に、このラベルを読み込んでください。
動作不具合による**フルリセット**を行いたい場合にも利用してください。

工場出荷

**VIERSION**

スキャナーのソフトウェアバージョンを表示（通知）します。パソコン側でメモ帳等のキーボードデータを表示可能な状態にしてから、**設定開始**ラベルを読み込んだ後に、このラベルを読み込んでください。
メンテナンス時には非常に重要です。

バージョン確認

**SETTING LIST**

設定されている各種の内容を表示（通知）します。パソコン側では、メモ帳等のキーボードデータを表示可能な状態にして読み込んでください。
設定されている情報が、キー入力と同様に通知されます。通知された設定内容は、英数字にて表示されます。
お手数をおかけいたしますが、本書との照り合わせを願います。

設定内容確認

**ABORT**

設定中に現在の内容を破棄したい場合に利用します。このコードを読むことにより、以前設定保存した内容に戻ります。
このコードは、各設定ページの左下にも用意してあります。

設定中断



設定中断



設定終了



キーボードインターフェイス



KEYBOARD SPEED

スキャナーがパソコンにバーコードデータを通知する速度を指定します。
 お使いのパソコンにあった速度を選択してください。
 通常の設定は、**高速** または **超高速** が性能的に良いと思われます。
 バーコードデータの表示が遅く、取りこぼしているような場合には、**中速** または **低速** に変更して試してください。

キー転送速度

Low	低速	CZA
Medium	中速	CZB
High	高速	CZC ★
Turbo	超高速	CZD

FUNCTION KEY SIMULATION

有効 に設定することにより、スキャナーはバーコードデータ中のアスキーコードで 01₁₆ から 1F₁₆ までの値をファンクションキーとみなしアプリケーションに通知します。
 詳しくは、**P 59** のキャラクタコード表を参照してください。

ファンクションキーの擬似

Disable	無効	DBA ★
Enable	有効	DBB

NUMERIC KEY POSITION

お使いのアプリケーションが数字キーをテンキーの物として意識している場合には、**テンキー** を読み込みスキャナーが送信する数字キーをテンキーの物に変更できます。
 (テンキーをご利用の際には、Num Lock を ON にした状態にてご利用願います)

数字キーの配置

Alphabetic-key	英字フルキー	DAA ★
Keypad	テンキー	DAB

CAPS LOCK

通常のご利用では、**英大文字状態** または **英小文字状態** を選択してください。
Alt+Keypad を設定した場合には、Caps Lock の状態にかかわらず、文字単位に独立して動作します。

C a p s L o c k

Uppercase	英大文字状態	DDA
Lowercase	英小文字状態	DDB ★
Alt+Keypad	Alt+Keypad	DDD

動作例 読み込んだバーコードが “ABCdef” の場合

状態 設定値	Caps Lock On	Caps Lock Off
英大文字状態	ABCdef	abcDEF
英小文字状態	abcDEF	ABCdef
Alt+Keypad	ABCdef	ABCdef

設定中断



設定終了



キーボードインターフェイス



KEYBOARD SIMULATION

殆どのパソコンは、起動時にキーボードの検査をしています。

キーボードを利用せずにスキャナーをご利用の際には、この設定を **有効** にする事をお勧めします。

有効にした場合には、パソコンの電源起動時にキーボードが接続されているように擬似をします。

キーボードの擬似

Disable **無効** **DCA** ★



Enable **有効** **DCB**



予備

Disable **無効** **DEA** ★



Enable **有効** **DEB**



INTERFACE ADJUSTMENT

文字間隔遅延

これを指定するとバーコードデータを転送する際に1文字転送するたびに遅延をします。

転送速度が速すぎて、読みこぼしがある場合等に指定して試してください。

データ間遅延

この設定は、バーコード出力後の遅延時間指定です。

短いバーコードを連続して読み込む場合や、マルチフィールドのバーコードを読み込む場合等に指定を行った方がよい場合があります。

特殊設定

InterCharDelay 文字間隔遅延 **BAL**



(範囲:00₁₀-99₁₀ 単位:1ms)

TransmitDelay データ間遅延 **BAM**



(範囲:00₁₀-99₁₀ 単位:10ms)

動作例 バーコードデータが“ABCD”で、文字間隔遅延を2msとして、転送遅延10msとした場合

■設定手順

- | | | | |
|------------------|---------------------|----------------|----------------------|
| 1) 設定開始 | | 設定の開始 | |
| 2) 文字間隔遅延 | 02 設定 | 文字間隔遅延に2msを設定 | 補足: 02*1ms(単位)=2ms |
| 3) データ間遅延 | 01 設定 | データ間遅延に10msを設定 | 補足: 01*10ms(単位)=10ms |
| 4) 設定保存終了 | | 設定を保存して終了 | |

■動作内容

以下のような形にて、各遅延が発生します。

例として両者を指定しましたが、片方のみの指定も可能です。

A	2ms	B	2ms	C	2ms	D	2ms	10ms
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	------

設定中断



設定終了



キーボードインターフェイス



KEYBOARD TYPE

本スキャナーは、工場出荷時にて日本の環境に適する設定を行い出荷しておりますが、お客様の使用環境（マシン種類）等によりましては、動作しない場合もあると思われま

す。
このような場合に、本設定を行い正しく動作するかお試しください。

※通常はこの設定を変更することはありません。

キーボードタイプ

IBM AT,PS/2 	DFB	★
IBM XT 	DFB	
予備 	DFC	
IBM PS/2 25,30 	DFD	
予備 	DFE	
IBM PS/2 55 	DFE	
IBM 5550 	DFG	
KT 106 	DFH	
IBM 5576 	DFI	
予備 1 	DFJ	
予備 2 	DFK	
予備 3 	DFL	
予備 4 	DFM	

設定中断



設定終了



キーボードインターフェイス



KEYBOARD LAYOUT

本スキャナーは、工場出荷時にて日本語キーボードが接続されている設定となっておりますが、その他の国に対応したキーボードもサポートしております。

適宜ご利用されているパソコンのキーボードと同じ物を選択してください。

MS-DOS では、“keyb” コマンドに設定する内容であり、WINDOWS の場合には、コントロールパネルの中にあるキーボードの言語設定に関係しています。

詳細については、お使いのOSのユーザーズマニュアルをご参照願います。

キーボードレイアウト

USA(US)	英語 (US)		DGA
Belgium(BE)	ベルギー (BE)		DGB
Danish(DK)	デンマーク (DK)		DGC
France(FR)	フランス (FR)		DGD
Germany(GR)	ドイツ (GR)		DGE
Italian(IT)	イタリア (IT)		DGF
Portuguese	ポルトガル (PO)		DGG
Spanish(SP)	スペイン (SP)		DGH
Swedish(SV)	スウェーデン (SV)		DGI
Switzerland	スイス (SF)		DGJ
UK(UK)	英国英語 (UK)		DGK
LatinAmerican	ラテンアメリカ (LA)		DGL
JAPAN(JP)	日本語 (JP)		DGM ★
Spare	予備		DGN

設定中断



設定終了



システム制御

**POWER-ON MUSIC**

電源投入時に、内部のセルフテストが正常に終了した場合には、起動音を鳴らしています。
 不必要な方は、**無効**を設定して停止させてください。

起動音

Disable **無効** **CBA**

 Enable **有効** **CBB** ★


POWER-ON AUTO TRIGGER

有効に設定した場合には、電源投入時にトリガースイッチを押さなくとも、自動的にスキャンニング状態になります。
 必要に応じて適宜設定してください。

起動スイッチ

Disable **無効** **CCA** ★

 Enable **有効** **CCB**


GOOD-READ LED

バーコードが正しく読み込んだ場合に本体上部のLEDを点燈させる指定で、工場出荷状態では点燈するように設定されています。
 LEDの点燈を止めたい場合には、**無効**を設定して停止させてください。

LED

Disable **無効** **CDA**

 Enable **有効** **CDB** ★


GOOD-READ BEEP

バーコードが正しく読み込んだ場合にブザーを鳴らす指定です。工場出荷状態では鳴るように設定されています。
 ブザーを止めたい場合には、**無効**を設定して停止させてください。
 また、ブザー音は**P 1 7**に説明するように、ラウンドネス・トーン・鼓動時間の指定が可能です。

ブザー音

Disable **無効** **CEA**

 Enable **有効** **CEB** ★


POWER SAVING

有効を設定することにより、パワーセーブが可能となります。
 パワーセーブ状態になると、電流は20mA未満となりますが、バーコードを検出するまでの動作が遅くなります。

パワーセーブ

Disable **無効** **CJA** ★

 Enable **有効** **CJB**


設定中断



設定終了



システム制御



DOUBLE CONFIRM

通常スキャナーは複数回バーコードを読み込み正しいと判断した時に、パソコンへデータを通知します。誤読等が多い場合には、**有効**を設定することにより、この重複検査をさらに長くすることを可能にしています。検査時間は、**P 1 8**に記載する**重複検査時間**まで延期することが可能です。

重複検査

Disable **無効** **CSA** ★

 Enable **有効** **CSB**


CASE CONVERSION

読み込んだバーコードの全ての文字について、指定された大文字・小文字に変換してパソコンに通知する機能指定です。必要に応じて**大文字**・**小文字**を設定してください。

文字変換

Disable **無効** **CTA** ★

 Uppercase **大文字** **CTC**

 Lowercase **小文字** **CTD**


動作例 バーコードデータが“BarCode”の場合

大文字設定	BARCODE
小文字設定	barcode

FIELD CONTROL

スキャナーは多くのバーコードデータを同じスキャンニングにて行う事が可能で、異なる種類についても同様です。通常は誤読を防止するために、1個としていますが**複数個**を設定することにより可能となります。**P 6 1**に記載するCodabar/NW7のテストコードにてお試しください。

フィールド制御

One Field **1個** **CRA** ★

 Multi Field **複数個** **CRB**


INTER-CHAR. GAP

CODE39 や Codabar/NW7 のようなコードは各文字が独立しています。連続して配置してある場合に隣のコードを認識していますので、バーコードデータの間隔を指定可能としてあります。隣を読み込む誤読が多い時には、**広い**を設定して試してください。

バーコード間隔

Narrow **狭い** **CGA** ★

 Wide **広い** **CGB**


予備

Disable **無効** **CPA** ★

 Enable **有効** **CPB**


設定中断



設定終了



システム制御



SCANNING MODE

バーコードをスキャンニングする際のスイッチ操作や時間の設定を行うメニューで、以下の内容が用意されています。

読込時消燈

トリガースイッチ押下にてスキャンニングが開始されます。

正しく読めた場合、または、読み込まない場合にも **P 17** に記述する **待機時間** が経過することにて消燈します。

押下時

トリガースイッチを押している間のみスキャンニングを行います。

トグルスイッチ

トリガースイッチを押下するたびに、スキャンニング状態がトグル式に変わります。

タイムアウト消燈

トリガースイッチの押下にてスキャンニングが開始され、**P 17** に記述する **待機時間** が来るまで読み込みが可能な状態となります。
連続に読み込みを行いたい場合等に便利です。

タイムアウト点滅

トリガースイッチの押下にてスキャンニングが開始され、**P 17** に記述する **待機時間** が来た後は、点滅状態となります。

このモードにより、消費電力が **常時読込** 設定に比べて少なくなりますが、認識するまでの時間は若干増えます。
再びバーコードを読むか、トリガースイッチを押下することにて点燈状態に遷移します。

常時読込

スキャナーはトリガースイッチや時間に関係無く、常に読み込み可能なスキャンニング状態を維持します。

テスト専用

この設定がされるとスキャナーはパソコンとの通信評価用の連続読み込み状態となります。

重複読込 の指定も無視され、同じコードを連続にスキャンしパソコンとの通信状態を診断可能とさせます。

読み込み状態

Good-read Off	読込時消燈	CAB ★
Momentary	押下時	CAC
Alternate	トグルスイッチ	CAD
Timeout Off	タイムアウト消燈	CAE
Timeout Flash	タイムアウト点滅	CAF
Continue	常時読込	CAG
Test Only	テスト専用	CAA
Object Detect	予備 1	CAI
Spare	予備 2	CAJ

設定中断



設定終了



システム制御



BEEP LOUDNESS

ブザー音を変更したい場合には、必要に応じて**音量**や**トーン**と**音長**を設定し好みの物に変更してください。設定したいバーコード読み込み後に、数値の指定を**P 59**を参照して2桁設定後に**設定**を読み込みます。

ブザー音の設定

Beep Loudness 音量 **BAC**(範囲:01₁₀-10₁₀ 単位:Level)Beep Tone トーン **BAD**(範囲:05₁₀-50₁₀ 単位:100Hz)Beep Duration 音長 **BAE**(範囲:01₁₀-99₁₀ 単位:10ms)Beep Tone1 トーン 1 **BDA**(範囲:05₁₀-50₁₀ 単位:100Hz)Beep Duration1 音長 1 **BDB**(範囲:00₁₀-99₁₀ 単位:10ms)

STAND-BY

バーコード読み込み待機時間を1~99秒の範囲で指定します。

この設定は、**読込消燈**や**タイムアウト消燈**・**タイムアウト点滅**の場合に有効な設定です。

バーコード読み込み後に、数値の指定を**P 59**を参照して2桁設定後に**設定**を読み込みます。

待機時間

Stand-by Time 待機時間 **BAF**(範囲:01₁₀-99₁₀ 単位:1s)

ACTIVE/SLEEP TIME

タイムアウト点滅を利用している場合には、2種類のタイムアウトがあります。

バーコードを読み込まない状態が続くと点滅状態となりますが、この点滅の**点燈時間**と**消燈時間**の指定となります。

バーコードの認識は、点灯中（スキャンニング中）でなければ読み込めませんので、必要に応じて各時間を調整願います。

点燈時間

Active Time 点燈時間 **BAG**(範囲:10₁₀-99₁₀ 単位:10ms)Sleep Time 消燈時間 **BAH**(範囲:10₁₀-99₁₀ 単位:10ms)

GOOD-READ DELAY

この設定は、同じバーコードを連続して読み込む場合の間隔の指定です。

読込消燈や**テスト専用**の場合には無視されます。

また、設定された時間は異なるバーコードを読んだ場合には初期化されます。

読み込み状態

Good-read Dly 読込間隔 **BAI**(範囲:10₁₀-99₁₀ 単位:10ms)

設定中断



設定終了



システム制御



ADDON WAITING

この設定は、EAN や UPC のような WPC 文字が追加される物に利用します。

WPC は最初に認識され、そして付加文字となります。しかし、付加される文字は必要が無い可能性もあります。したがって、スキャナは追加文字を認識した後に、WPC と追加文字部の送信について、同じ待ち時間をおいて送信します。

追加文字転送間隔

Add-Waiting 追加文字間隔 BAK



(範囲: 01₁₀-99₁₀ 単位: 10ms)

DOUBLE CONFIRM

通常スキャナは複数回バーコードを読み込み正しいと判断した時に、パソコンへデータを通知します。誤読等が多い場合には、この重複検査をさらに長くすることを可能にしています。より良い精度でバーコードを読み込ませるには回数を多くすることが必要ですが、その分認識して送信されるまでの時間は長くなります。必要により適宜設定を行ってください。

重複検査

D-Confirm 重複検査時間 BAJ



(範囲: 01₁₀-99₁₀)

PUBLIC MIN/MAX. LENGTH

最小文字数と最大文字数は、全てのコード体系に有効で、データ入力の精度を高めます。

全ての文字を読む場合には、文字数に 0 を指定します。文字数とは、送信される全てのバーコードデータ長をさし

ています。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないの

で、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

UPC や EAN (称して WPC) のように、長さが決められたバーコードの場合には、働きません。

文字数設定

Public Min. 最小文字数 BAA



(範囲: 01₁₀-56₁₀)

Public Max. 最大文字数 BAB



(範囲: 04₁₀-56₁₀)

設定中断



設定終了



UPC-A



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

先頭の0 (1文字)	データ部 (11文字)	チェックデジット (1文字)
---------------	----------------	-------------------

読込

Disable	無効	<input type="checkbox"/> DVA
Enable	有効	<input checked="" type="checkbox"/> DVB ★

追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。

必要に応じて設定してください。

出力データ形式

先頭の0 (1文字)	データ部 (11文字)	チェックデジット (1文字)	追加文字 2or5文字
---------------	----------------	-------------------	----------------

追加文字(add-on code)

Disable	無効	<input type="checkbox"/> DWA ★
Add-on 2 Only	追加2文字のみ	<input type="checkbox"/> DWB
Add-on 5 Only	追加5文字のみ	<input type="checkbox"/> DWC
Add-on 2 or 5	追加2or5文字	<input type="checkbox"/> DWD

上記WPCの追加文字(add-on code)を有効にした場合のみ機能し、追加文字を送信する本体のバーコードとの間隔の設定です。

有効にした場合の時間(間隔)は、**P18**にて説明している**追加文字間隔**にて変更(設定)が可能です。

追加文字待ち時間

Disable	無効	<input type="checkbox"/> DXA ★
Enable	有効	<input type="checkbox"/> DXB

このコードでは、チェックデジットが標準で含まれていません。

チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、**無効**を設定してください。

チェックデジット転送

Disable	無効	<input type="checkbox"/> EAA
Enable	有効	<input checked="" type="checkbox"/> EAB ★

設定中断



設定終了



UPC-A



読み込んだバーコードデータの先頭に0が続く場合に、この0を削除したい場合には、**有効**を設定してください。

動作例 バーコードデータが“00054321”の場合

■出力内容 “54321”

ゼロサプレス

Disable **無効** **DZA** ★



Enable **有効** **DZB**



予備

Disable **無効** **DYA** ★



Enable **有効** **DYB**



切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクターコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading **切詰読込** **BAO**



(範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending **最終切詰** **BAP**



(範囲:00₁₀-15₁₀)

Code ID **コードID** **AAA**



(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

Insert Group **グループ挿入** **BDC**



(範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



UPC-E



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

先頭の0 (1文字)	データ部 (6文字)	チェックデジット (1文字)
---------------	---------------	-------------------

読込

Disable	無効	ECA
Enable	有効	ECB ★

追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。
必要に応じて設定してください。

出力データ形式

先頭の0 (1文字)	データ部 (6文字)	チェックデジット (1文字)	追加文字 2or5文字
---------------	---------------	-------------------	----------------

追加文字(add-on code)

Disable	無効	EDA ★
Add-on 2 Only	追加2文字のみ	EDB
Add-on 5 Only	追加5文字のみ	EDC
Add-on 2 or 5	追加2 or 5文字	EDD

上記WPCの追加文字(add-on code)を有効にした場合のみ機能し、追加文字を送信する、本体のバーコードとの間隔の設定です。
有効にした場合の時間(間隔)は、**P18**にて説明している**追加文字間隔**にて変更(設定)が可能です。

追加文字待ち時間

Disable	無効	EEA ★
Enable	有効	EEB

この機能は、UPC-E や EAN-8(JAN-8)のコードを読んだ際に、0を付加させ13桁のコードとして通知する指定です。
必要に応じて**有効**を設定してください。

動作例 バーコードデータが“01236547”の場合

■ 出力内容 “0012360000547”

13桁拡張

Disable	無効	EFA ★
Enable	有効	EFB

設定中断



設定終了



UPC-E



このコードでは、チェックデジットが標準に含まれていません。

チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、**無効**を設定してください。

チェックデジット転送

Disable **無効** **EIA**

 Enable **有効** **EIB** ★


読み込んだバーコードデータの先頭に0が続く場合に、この0を削除したい場合には、**有効**を設定してください。

動作例 バーコードデータが“00054321”の場合

■ 出力内容 “54321”

ゼロサプレス

Disable **無効** **EHA** ★

 Enable **有効** **EHB**


予備

Disable **無効** **EGA** ★

 Enable **有効** **EGB**


切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading **切詰読込** **BAQ**

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending **最終切詰** **BAR**

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Code ID1 **コードID1** **AAB**

 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

Code ID2 **コードID2** **AAC**

 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

Insert Group **グループ挿入** **BDD**

 (範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



EAN-13 (JAN-13)



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (12 文字)	チェックデジット (1 文字)
-----------------	--------------------

読込

Disable	無効	<input type="checkbox"/> EKA
Enable	有効	<input type="checkbox"/> EKB ★

追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。
必要に応じて設定してください。

出力データ形式

データ部 (12 文字)	チェックデジット (1 文字)	追加文字 2or5 文字
-----------------	--------------------	-----------------

追加文字(add-on code)

Disable	無効	<input type="checkbox"/> ELA ★
Add-on 2 Only	追加 2 文字のみ	<input type="checkbox"/> ELB
Add-on 5 Only	追加 5 文字のみ	<input type="checkbox"/> ELC
Add-on 2 or 5	追加 2 or 5 文字	<input type="checkbox"/> ELD

上記WPCの追加文字(add-on code)を有効にした場合のみ機能し、追加文字を送信する本体のバーコードとの間隔の設定です。
有効にした場合の時間(間隔)は、**P18**にて説明している**追加文字間隔**にて変更(設定)が可能です。

追加文字待ち時間

Disable	無効	<input type="checkbox"/> EMA ★
Enable	有効	<input type="checkbox"/> EMB

ISBN(International Standard Book Number)と ISSN(International Standard Serial Number)は、本や雑誌に利用されている2種類のバーコードです。
ISBNは、EAN-13の形式にて“978”に続く10文字のデータとなり、ISSNは、“977”に続く8文字のデータとなります。
これら各コードに対応したデータの部分のみを通知させたい場合には、**有効**を設定してください。

ISBN/ISSN 変換

Disable	無効	<input type="checkbox"/> ENA ★
Enable	有効	<input type="checkbox"/> ENB

動作例(ISBN) バーコードデータが“9789572222720”の場合

■ 出力内容 “9572222724”

動作例(ISSN) バーコードデータが“9771019248004”の場合

■ 出力内容 “10192484”

設定中断



設定終了



EAN-13 (JAN-13)



このコードでは、チェックデジットが標準で含まれていません。

チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、**無効**を設定してください。このチェックデジットは、モジュラス10ウエイト3にて算出されています。

チェックデジット転送

Disable **無効** **EQA**

 Enable **有効** **EQB** ★


読み込んだバーコードデータの先頭に0が続く場合に、この0を削除したい場合には、**有効**を設定してください。

動作例 バーコードデータが“00054321”の場合

■ 出力内容 “54321”

ゼロサプレス

Disable **無効** **EPA** ★

 Enable **有効** **EPB**


予備

Disable **無効** **EOA** ★

 Enable **有効** **EOB**


切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクターコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading **切詰読込** **BAS**

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending **最終切詰** **BAT**

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Code ID **コードID** **AAD**

 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Insert Group **グループ挿入** **BDE**

 (範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



EAN-8 (JAN-8)



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (7文字)	チェックデジット (1文字)
---------------	-------------------

読込

Disable	無効	ESA
Enable	有効	ESB ★

追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。

必要に応じて設定してください。

出力データ形式

データ部 (7文字)	チェックデジット (1文字)	追加文字 2or5文字
---------------	-------------------	----------------

追加文字(add-on code)

Disable	無効	ETA ★
Add-on 2 Only	追加2文字のみ	ETB
Add-on 5 Only	追加5文字のみ	ETC
Add-on 2 or 5	追加2 or 5文字	ETD

上記WPCの追加文字(add-on code)を有効にした場合のみ機能し、追加文字を送信する本体のバーコードとの間隔の設定です。

有効にした場合の時間(間隔)は、**P18**にて説明している**追加文字間隔**にて変更(設定)が可能です。

追加文字待ち時間

Disable	無効	EUA ★
Enable	有効	EUB

この機能は、UPC-EやEAN-8(JAN-8)のコードを読んだ際に、0を付加させ13桁のコードとして通知する指定です。必要に応じて**有効**を設定してください。

動作例 バーコードデータが“01236547”の場合

■ 出力内容 “0012360000547”

13桁拡張

Disable	無効	EVA ★
Enable	有効	EVB

設定中断



設定終了



EAN-8 (JAN-8)



このコードでは、チェックデジットが標準で含まれていません。

チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、**無効**を設定してください。このチェックデジットは、モジュラス10ウエイト3にて算出されています。

チェックデジット転送

Disable **無効** **EYA**

 Enable **有効** **EYB** ★


読み込んだバーコードデータの先頭に0が続く場合に、この0を削除したい場合には、**有効**を設定してください。

動作例 バーコードデータが“00054321”の場合

■出力内容 “54321”

ゼロサプレス

Disable **無効** **EXA** ★

 Enable **有効** **EXB**


予備

Disable **無効** **EWA** ★

 Enable **有効** **EWB**


特殊設定

切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

Leading **切詰読込** **BAU**

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending **最終切詰** **BAV**

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Code ID1 **コードID1** **AAE**

 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Code ID2 **コードID2** **AAF**

 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Insert Group **グループ挿入** **BDF**

 (範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



CODE 39 (CODE 32)



このコードを利用する場合には「有効」を、利用しない場合には「無効」を設定してください。

出力データ形式

スタート	データ部	チェックサム	ストップ
"*"	(可変)	(オプション)	"*"

フルアスキーを設定した場合には、標準の CODE39 では表現できない 128 文字までの認識を可能とさせます。フルアスキーの表現には、「+」や「%」・「\$」・「/」の記号から始まる文字を利用して A～Z までの英字と組み合わせ、2 文字で 1 文字を表す事にて実現します。詳しくは、P58 に記載します「CODE 39 フルアスキー対応表」をご参照下さい。

CODE32 の記号(Italian Pharmaceutical)は、CODE39 とは異なり、0～9 までの 10 文字の数字で構成されます。読まれた、オプションの「A」を転送する場合には、「A」を含むを設定し、不必要な場合には「数字のみ」を設定して CODE32 の利用を有効とさせます。

CODE39 のスタートコードとストップコードである、「*」転送を指定します。「有効」を設定した場合には、バーコードデータは前後に「*」が付加され、はさまれた形でパソコンに転送されます。

この機能は、いくつかのシンボルに対して 1 文字の入力として結合されて認識される設定です。その際、埋め込まれた追加コードは転送されません。「有効」を設定した場合には、コード ID やプレアンブル・プリフィックスデータは転送されません。追加コードが付加されていないデータについても同様です。ただし、末尾に付加するサフィックス・ポストアンブルデータはパソコンに転送されます。

読込

Disable 無効 FAA

Enable 有効 FAB ★

フォーマット (形式)

Standard 標準 FBA ★

Full ASCII フルアスキー FBB

CODE32 の転送

Disable 無効 FCA ★

Without 'A' 数字のみ FCC

With 'A' A を含む FCD

スタート/ストップコード転送

Disable 無効 FFA ★

Enable 有効 FFB

追加文字

Disable 無効 FEA ★

Enable 有効 FEB

設定中断



設定終了



CODE 39(CODE 32)



チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE39ではモジュラス43を利用しています。

チェックサムを検査する場合には「有効」を設定してください。

エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。モジュラス43は、CODE39で利用している43種類の文字にそれぞれ番号を割り当て算出された数字です。

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。

この文字をパソコンに転送したい場合には、「有効」を設定してください。

切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、「切詰読込」は、先頭からの文字数となり、「最終切詰」は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないのので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID／CODE32-ID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種類をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じてP57の「コードID転送」を「有効」にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、P55の「挿入データ」を参照して設定し、評価してください。

チェックサムの検査

Disable 無効 FGA ★

 Enable 有効 FGB


チェックサムの転送

Disable 無効 FHA ★

 Enable 有効 FHB


特殊設定

Leading 切詰読込 BAY

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending 最終切詰 BAZ

 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Min. Length 最小文字数 BAW

 (範囲:00₁₀-56₁₀)

Max. Length 最大文字数 BAX

 (範囲:00₁₀-56₁₀)

Code ID コードID AAG

 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Code-32 ID CODE32-ID ABH

 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Insert Group グループ挿入 BDG

 (範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



Interleaved 2 of 5



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム (オプション)
--------------	-------------------

読込

Disable **無効** FKA ★

Enable **有効** FKB

フォーマット (形式)

一般に Interleaved 2 of 5 は、1 文字のバーコードで 2 個の数字を表しています。
 文字数が奇数個の場合には、奇数コード (ODD S-code) として読み込む必要がありますので、**奇数コード**を設定してください。

Standard **標準** FLA ★

Odd S-code **奇数コード** FLB

チェックサムの検査

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Interleaved 2 of 5 ではモジュラス 10 ウェイト 3 を利用しています。
 チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。
 エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。
 このコードは性質上誤読が多いので、チェックサムをつけるの運用をお勧めします。

Disable **無効** FNA ★

Enable **有効** FNB

チェックサムの転送

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。
 この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

Disable **無効** FOA ★

Enable **有効** FOB

予備

Disable **無効** FMA ★

Enable **有効** FMB

設定中断



設定終了



Interleaved 2 of 5



Interleaved 2 of 5 のスタートとストップは、異なっているために、バーコードイメージの解析中に途中で終わったと認識される場合があります。

長さが決まった内容を扱う場合には、最小文字数と最大文字数に扱うバーコードの文字数を設定して、指定した長さ以外は読み捨てられるように設定することをお勧めします。

切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID／S-Code-ID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading	切詰読込	BBC
(範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)		
Ending	最終切詰	BBD
(範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)		
Min. Length	最小文字数	BBA
(範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)		
Max. Length	最大文字数	BBB
(範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)		
Code ID	コードID	AAH
(範囲:00 ₁₆ -FF ₁₆ アスキーコード*)		
S-Code ID	S-Code-ID	ABI
(範囲:00 ₁₆ -FF ₁₆ アスキーコード*)		
Insert Group	グループ挿入	BDH
(範囲:00 ₁₀ -99 ₁₀)		

設定中断



設定終了



Industrial 2 of 5



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム (オプション)
--------------	-------------------

読込

Disable **無効** **FQA** ★

 Enable 有効 **FQB**


チェックサムの検査

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Industrial 2 of 5ではモジュラス10ウエイト3を利用しています。チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

Disable **無効** **FSA** ★

 Enable 有効 **FSB**


チェックサムの転送

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

Disable **無効** **FTA** ★

 Enable 有効 **FTB**


予備

Disable **無効** **FRA** ★

 Enable 有効 **FRB**


設定中断



設定終了





切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクターコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading 切詰読込 **BBG**



(範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending 最終切詰 **BBH**



(範囲:00₁₀-15₁₀)

Min. Length 最小文字数 **BBE**



(範囲:00₁₀-56₁₀)

Max. Length 最大文字数 **BBF**



(範囲:00₁₀-56₁₀)

Code ID コードID **AAI**



(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

Insert Group グループ挿入 **BDI**



(範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



Matrix 2 of 5



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム (オプション)

読込

Disable **無効** FVA ★

 Enable **有効** FVB


チェックサムの検査

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Matrix 2 of 5ではモジュラス10ウエイト3を利用しています。チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

Disable **無効** FXA ★

 Enable **有効** FXB


チェックサムの転送

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

Disable **無効** FYA ★

 Enable **有効** FYB


予備

Disable **無効** FWA ★

 Enable **有効** FWB


設定中断



設定終了





切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading	切詰読込  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BBK
Ending	最終切詰  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BBL
Min. Length	最小文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BBI
Max. Length	最大文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BBJ
Code ID	コードID  (範囲:00 ₁₆ -FF ₁₆ アスキーコード*)	AAJ
Insert Group	グループ挿入  (範囲:00 ₁₀ -99 ₁₀)	BDJ



China Post 2 of 5



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム (オプション)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、China Post 2 of 5ではモジュラス10ウエイト3を利用しています。チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

読込

Disable **無効** GAA ★

 Enable **有効** GAB

チェックサムの検査

Disable **無効** GCA ★

 Enable **有効** GCB

チェックサムの転送

Disable **無効** GDA ★

 Enable **有効** GDB

予備

Disable **無効** GBA ★

 Enable **有効** GBB



China Post 2 of 5



工場出荷時の文字数

China Post 2 of 5 は、通常は 1 1 文字固定にて利用されます。

本スキャナーは、上記理由により工場出荷状態では、最小文字数と最大文字数に 1 1 が設定されており、1 1 文字以外は読み込まないように設定されています。

切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15 の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に 0 を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者と同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コード ID

コード ID は、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて **P 5 7** の **コード ID 転送** を **有効** にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、1 6 進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1 または 2 文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P 5 5** の **挿入データ** を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading	切詰読込  (範囲: 00 ₁₀ -15 ₁₀)	BBO
Ending	最終切詰  (範囲: 00 ₁₀ -15 ₁₀)	BBP
Min. Length	最小文字数  (範囲: 00 ₁₀ -56 ₁₀)	BBM
Max. Length	最大文字数  (範囲: 00 ₁₀ -56 ₁₀)	BBN
Code ID	コード ID  (範囲: 00 ₁₆ -FF ₁₆ アスキーコード)	AAK
Insert Group	グループ挿入  (範囲: 00 ₁₀ -99 ₁₀)	BDK

設定中断



設定終了



Codabar/NW7



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

スタート	データ部 (可変)	チェックサム (オプション)	ストップ

読込

Disable **無効** GFA
 Enable **有効** GFB ★

Codabar は、4 種類のスタートコードとストップコードが用意されています。
 お使いになられるバーコードの種類に合わせて1つを選択してください。

スタート・ストップ種類

ABCD/ABCD **ABCD/ABCD** GGA ★
 abcd/abcd abcd/abcd GGB
 ABCD/TN*E ABCD/TN*E GGC
 abcd/tn*e abcd/tn*e GGD

お使いになられている Codabar バーコードのスタートコードとストップコードが同一の場合には、**有効**を設定してください。
 誤読を防ぐためにも有効です。

スタート・ストップ同種

Disable **無効** GHA ★
 Enable **有効** GHB

Codabar のスタート・ストップコードをパソコンに転送する指定です。
有効を設定した場合には、バーコードデータの前後にスタート・ストップコードが付加されパソコンに転送されません。

スタート/ストップコード転送

Disable **無効** GIA ★
 Enable **有効** GIB



Codabar/NW7



チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Codabar ではモジュラス 16 を利用しています。

チェックサムを検査する場合には **有効** を設定してください。

エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

チェックサムの検査

Disable **無効** **GJA** ★

 Enable **有効** **GJB**


チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。

この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効** を設定してください。

チェックサムの転送

Disable **無効** **GKA** ★

 Enable **有効** **GKB**


切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15 の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込** は、先頭からの文字数となり、**最終切詰** は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に 0 を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コード ID

コード ID は、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。アプリケーションの必要に応じて **P57** の **コード ID 転送** を **有効** にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16 進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1 または 2 文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55** の **挿入データ** を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading **切詰読込** **BBS**

(範囲: 00₁₀-15₁₀)

Ending **最終切詰** **BBT**

(範囲: 00₁₀-15₁₀)

Min. Length **最小文字数** **BBQ**

(範囲: 00₁₀-56₁₀)

Max. Length **最大文字数** **BBR**

(範囲: 00₁₀-56₁₀)

Code ID **コード ID** **AAL**

(範囲: 00₁₆-FF₁₆ アスキーコード)

Insert Group **グループ挿入** **BDL**

(範囲: 00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



CODE 128



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム (オプション)
--------------	-------------------

読込

Disable 無効 **GMA**

Enable **有効** **GMB** ★

CODE128 は、バーコードデータを FNC1 にて開始することにて、UCC/EAN-128 の形式にてデータを転送することができます。

この場合に、はじめの FNC1 “J1” が転送され、“<GS>”^(7F16)までが一まとめとなります。

J1 データ部 <GS> データ部 チェックサム

フォーマット (形式)

Standard **標準** **GNA** ★

UCC/EAN-128 UCC/EAN128 **GNB**

いくつかのバーコードシンボルの連結したデータを1つのデータとして扱いたい場合には、**有効**を設定してください。

追加文字

Disable **無効** **GOA** ★

Enable 有効 **GOB**

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE128 ではモジュラス103ウエイト1を利用しています。チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

チェックサムの検査

Disable 無効 **GQA**

Enable **有効** **GQB** ★

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

チェックサムの転送

Disable **無効** **GRA** ★

Enable 有効 **GRB**

設定中断



設定終了



CODE 128



予備

Disable **無効** **GPA** ★


Enable **有効** **GPB**


切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID／UCC/EAN-128 ID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

連続データ

この機能は、UCC/EAN-128フォーマットの場合のみ利用でき、ご利用方法によりFNC1の後に、再度割り当ててることを意味しています。

工場出荷時の“<GS>”は、アスキーコードの1D₁₆となっています。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading **切詰読込** **BBW**

(範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending **最終切詰** **BBX**

(範囲:00₁₀-15₁₀)

Min. Length **最小文字数** **BBU**

(範囲:00₁₀-56₁₀)

Max. Length **最大文字数** **BBV**

(範囲:00₁₀-56₁₀)

Code ID **コードID** **AAM**

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

UCC/EAN-128 **UCC/EAN-128 ID** **ABJ**

(範囲:00₁₀-99₁₀)

Concatenation **連続データ** **ABK**

(範囲:00₁₀-99₁₀)

Insert Group **グループ挿入** **BDM**

(範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



CODE 93



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム 1 (オプション)	チェックサム 2 (オプション)

読込

Disable **無効** GTA ★

Enable **有効** GTB

いくつかのバーコードシンボルの連結したデータを1つのデータとして扱いたい場合には、**有効**を設定してください。

追加文字

Disable **無効** GVA ★

Enable **有効** GVB

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE93ではモジュラス47を利用しています。
 一般的には、2文字を付加させていますので、工場出荷では**2文字**が設定されています。
 必要により、変更を行ってください。

チェックサムの検査

Disable **無効** GWA

One **1文字** GWC

Two **2文字** GWD ★

チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。
 この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

チェックサムの転送

Disable **無効** GXA ★

Enable **有効** GXB

設定中断



設定終了



CODE 93



予備

Disable **無効** GUA ★
 Enable **有効** GUB

切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクターコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading **切詰読込** BCA
 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending **最終切詰** BCB
 (範囲:00₁₀-15₁₀)

Min. Length **最小文字数** BBY
 (範囲:00₁₀-56₁₀)

Max. Length **最大文字数** BBZ
 (範囲:00₁₀-56₁₀)

Code ID **コードID** AAN
 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

Insert Group **グループ挿入** BDN
 (範囲:00₁₀-99₁₀)

設定中断



設定終了



CODE 1 1



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム 1 (オプション)	チェックサム 2 (オプション)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE11 ではモジュラス 1 1 を利用しています。
一般的には、2 文字を付加させていますので、工場出荷では**2 文字**が設定されています。
必要により、変更を行ってください。

チェックサムを利用した場合には、最終の 1 文字または 2 文字がチェックサムとなります。
この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

読込

Disable **無効** GZA ★

 Enable **有効** GZB


チェックサムの検査

Disable **無効** HBA

 One **1 文字** HBC

 Two **2 文字** HBD ★


チェックサムの転送

Disable **無効** HCA ★

 Enable **有効** HCB


予備

Disable **無効** HAA ★

 Enable **有効** HAB


設定中断



設定終了



CODE 11



切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading	切詰読込  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BCE
Ending	最終切詰  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BCF
Min. Length	最小文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BCC
Max. Length	最大文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BCD
Code ID	コードID  (範囲:00 ₁₆ -FF ₁₆ アスキーコード*)	AAO
Insert Group	グループ挿入  (範囲:00 ₁₀ -99 ₁₀)	BDO

設定中断



設定終了



MSI/Plessey



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム 1 (オプション)	チェックサム 2 (オプション)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、MSI/Plesseyではモジュラス10または11を利用しています。一般的には、1文字を付加させていますので、工場出荷では**モジュラス10**が設定されています。必要により、変更を行ってください。

チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

読込

Disable **無効** **HEA** ★

 Enable **有効** **HEB**


チェックサムの検査

Disable **無効** **HGA**

 Mod 10 **モジュラス 10** **HGB** ★

 Mod 10/10 **モジュラス 10/10** **HGC**

 Mode 11/10 **モジュラス 11/10** **HGD**


チェックサムの転送

Disable **無効** **HHA** ★

 Enable **有効** **HHB**


予備

Disable **無効** **HFA** ★

 Enable **有効** **HFB**


設定中断



設定終了





切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading 切詰読込 **BCI**



(範囲:00₁₀-15₁₀)

Ending 最終切詰 **BCJ**



(範囲:00₁₀-15₁₀)

Min. Length 最小文字数 **BCG**



(範囲:00₁₀-56₁₀)

Max. Length 最大文字数 **BCH**



(範囲:00₁₀-56₁₀)

Code ID コードID **AAP**



(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Insert Group グループ挿入 **BDP**



(範囲:00₁₀-99₁₀)



UK/Plessey



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム 1 (オプション)	チェックサム 2 (オプション)

読込

Disable **無効** **HQA** ★

 Enable **有効** **HQB**

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字です。
 チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。
 エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

チェックサムの検査

Disable **無効** **HSA**

 Enable **有効** **HSB** ★

チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。
 この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

チェックサムの転送

Disable **無効** **HTA** ★

 Enable **有効** **HTB**

予備

Disable **無効** **HRA** ★

 Enable **有効** **HRB**

設定中断



設定終了





切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading	切詰読込  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BCQ
Ending	最終切詰  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BCR
Min. Length	最小文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BCO
Max. Length	最大文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BCP
Code ID	コードID  (範囲:00 ₁₆ -FF ₁₆ アスキーコード*)	AAR
Insert Group	グループ挿入  (範囲:00 ₁₀ -99 ₁₀)	BDQ



IATA



IATAは、International Air Transport Associationの略です。
このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム (オプション)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、IATAではモジュラス7を利用しています。
チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。
エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。
この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

読込

Disable **無効** HJA ★

Enable **有効** HJB

チェックサムの検査

Disable **無効** HNA ★

Enable **有効** HNB

チェックサムの転送

Disable **無効** HOA ★

Enable **有効** HOB

予備 1

Disable **無効** HKA ★

Enable **有効** HKB

予備 2

Disable **無効** HLA ★

Enable **有効** HLB

設定中断



設定終了



**切詰読込／最終切詰**

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないもので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクタコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

グループ挿入

スキャナーは、1または2文字のグループをバーコードの種類単位に挿入可能です。

詳細については、**P55**の**挿入データ**を参照して設定し、評価してください。

特殊設定

Leading	切詰読込  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BCM
Ending	最終切詰  (範囲:00 ₁₀ -15 ₁₀)	BCN
Min. Length	最小文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BCK
Max. Length	最大文字数  (範囲:00 ₁₀ -56 ₁₀)	BCL
Code ID	コードID  (範囲:00 ₁₆ -FF ₁₆ アスキーコード [*])	AAQ
Insert Group	グループ挿入  (範囲:00 ₁₀ -99 ₁₀)	BDR



Te le pen



このコードを利用する場合には**有効**を、利用しない場合には**無効**を設定してください。

出力データ形式

データ部 (可変)	チェックサム (オプション)
--------------	-------------------

読込

Disable **無効** HVA ★

 Enable **有効** HVB


Te le pen は**数字のみ**と**フルアスキー** (英数字+記号) の利用が可能です。

また、**オートスイッチ**を指定することにて、キャラクタを混合させることも可能です。

この場合、“(7F16)”コードによって、英数字とフルアスキーを切り替えます。

フォーマット (形式)

Numeric Only **数字のみ** HWA ★

 Full ASCII **フルアスキー** HWB

 Auto Switch **オートスイッチ** HWC


チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字です。

チェックサムを検査する場合には**有効**を設定してください。

エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

チェックサムの検査

Disable **無効** HYA ★

 Enable **有効** HYB


チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。

この文字をパソコンに転送したい場合には、**有効**を設定してください。

この設定は、チェックサムの検査を有効にした状態で設定願います。

チェックサムの転送

Disable **無効** HZA ★

 Enable **有効** HZB


予備

Disable **無効** HXA ★

 Enable **有効** HXB


設定中断



設定終了



Te le pen



切詰読込／最終切詰

読み込んだバーコードデータは、先頭または末尾より切り詰める（1～15の指定文字数を割愛）ことができます。切り捨てる文字数が、バーコードデータより多い場合には何も読めない場合やビープ音のみ鳴るといった動作になりますので注意して指定してください。

また、**切詰読込**は、先頭からの文字数となり、**最終切詰**は末尾からの文字数となりますので、加算した値が全文字数より多い場合もデータが読み込めなくなります。

最大文字数／最小文字数

最小文字数と最大文字数は、データ入力の精度を高めます。全ての文字を読む場合には、文字数に0を指定します。設定の範囲外の場合には、認識はされても転送されないのので、最小値が最大値を越えないように設定してください。両者に同じ値を設定した場合には、その文字数のみ認識されることとなります。

コードID

コードIDは、読み込んだバーコードデータの種別をバーコードデータの先頭に付加して通知する文字です。

アプリケーションの必要に応じて**P57**の**コードID****転送**を**有効**にした上で、変更したい場合にはキャラクターコード表を参照の上、16進数にて付加させる文字を設定してください。

特殊設定

Leading 切詰読込 **BCU**(範囲:00₁₀-15₁₀)Ending 最終切詰 **BCV**(範囲:00₁₀-15₁₀)Min. Length 最小文字数 **BCS**(範囲:00₁₀-56₁₀)Max. Length 最大文字数 **BCT**(範囲:00₁₀-56₁₀)Code ID コードID **AAS**(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

設定中断



設定終了



設定開始

プリアンプル/ポストアンプル



PREAMBLE

読み込んだバーコードデータのヘッダーとして、文字列を先頭に付加させたい場合は、プリアンプルを**有効**に設定してください。

詳しい出力データの位置（フォーマット）については、**P 5**を参照してください。

プリアンプルの転送

Disable **無効** IEA ★

 Enable **有効** IEB

PREAMBLE DATA

プリアンプルデータは、2つのコードが設定可能です。**データ1**と**データ2**を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード（16進数）にて設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの先頭に自動的に付加されます。

プリアンプルデータ

Data1 **データ 1** AAZ

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Data2 **データ 2** ABA

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

POSTAMBLE

読み込んだバーコードデータのフッターとして、文字列を末尾に付加させたい場合は、ポストアンプルを**有効**に設定してください。

出力データの位置（フォーマット）については、**P 5**を参照してください。

ポストアンプルの転送

Disable **無効** IFA

 Enable **有効** IFB ★

POSTAMBLE DATA

ご利用のソフトによっては、読み込まれたバーコードデータの末尾にキャリッジリターン以外を付加させたい場合があります。

その場合には、**データ1**と**データ2**を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード（16進数）にて設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの末尾に自動的に付加されます。

工場出荷時の設定は、データ1に“<CR>(0D₁₆)”、データ2に“<LF>(0A₁₆)”が設定されています。

ポストアンプルデータ

Data1 **データ 1** ABB

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Data2 **データ 2** ABC

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

設定例 バーコードデータの末尾に“@+”と付加させる場合

- 1) 設定開始
- 2) 有効
- 3) データ1 40 設定 データ2 2B 設定
“@” “+”
- 4) 設定保存終了

設定の開始
 ポストアンプルを有効にする
 ポストアンプルデータに“@+”を設定
 設定した内容を保存して終了

設定中断



設定終了



設定開始

プリフィックス/サフィックス



PREFIX

読み込んだバーコードデータのヘッダーとして、15文字以内の文字列を先頭に付加させたい場合は、プリフィックスを**有効**に設定してください。

設定された文字列は、プリアンブルデータとバーコードデータの間に挿入されます。

詳しい出力データの位置（フォーマット）については、**P5**を参照してください。

プリフィックスの転送

Disable **無効** IGA ★
 Enable **有効** IGB
 Clear All **全消去** IMA

PREFIX DATA

プリフィックスデータを設定する場合には、**データ**を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード（16進数）にて15文字以内にて繰り返し設定します。

設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの先頭に自動的に付加されます。

プリフィックスデータ

Data **データ** ABF
(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

SUFFIX

読み込んだバーコードデータのフッターとして、15文字以内の文字列を末尾に付加させたい場合には、サフィックスを**有効**に設定してください。

設定された文字列は、ポストアンブルデータとバーコードデータの間に挿入されます。

詳しい出力データの位置（フォーマット）については、**P5**を参照してください。

サフィックスの転送

Disable **無効** IHA ★
 Enable **有効** IHB
 Clear All **全消去** INA

SUFFIX DATA

サフィックスデータを設定する場合には、**データ**を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード（16進数）にて15文字以内にて繰り返し設定します。

設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの末尾に自動的に付加されます。

サフィックスデータ

Data **データ** ABG
(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

設定例 バーコードデータの末尾に“ABCD”と付加させる場合

- 1) **設定開始**
- 2) **有効**
- 3) **データ** 1 **4** 1 **4** 2 **4** 3 **4** 4 **設定**
“A” “B” “C” “D”
- 4) **設定保存終了**

設定の開始
 サフィックスを有効にする
 サフィックスデータに“ABCD”を設定
 設定した内容を保存して終了

設定中断



設定終了



設定開始

文字挿入



ADDON INSERTION

読み込んだWPCコードと追加文字(add-on code)の間に文字を挿入したい場合には**有効**に設定してください。追加挿入する文字は2文字となり、下の**追加文字データ**にて設定を行ってください。

WPC	挿入文字	追加文字
-----	------	------

WPC文字挿入

Disable **無効** IIA ★
 Enable **有効** IIB

ADDON DATA

WPCと追加文字(add-on code)は、2つのコードが設定可能です。

データ1と**データ2**を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード(16進数)にて設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータ間に自動的に付加されます。

追加文字データ

Data1 **データ1**
 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Data2 **データ2**
 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

INSERTION1

本スキャナは、バーコードデータ中の4箇所までに8文字までの文字を自動挿入できます。

挿入位置の初期値は、00です。

バーコードデータの文字数より多い位置を指定した場合には無視されます。

設定と動作例については、次ページを参照ください。

挿入データ1

Position **位置1**
 (範囲:00₁₀-48₁₀)

Data1 **データ1**
 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Data2 **データ2**
 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

INSERTION2

挿入データの2を指定します。

設定と動作例については、次ページを参照ください。

挿入データ2

Position **位置2**
 (範囲:00₁₀-48₁₀)

Data1 **データ1**
 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

Data2 **データ2**
 (範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード*)

設定中断



設定終了



設定開始

文字挿入



INSERTION3

挿入データの3を指定します。
設定と動作例については、下を参照ください。

挿入データ 3

Position 位置 3 BCY

(範囲:00₁₀-48₁₀)

Data1 データ 1 ABP

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

Data2 データ 2 ABQ

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

INSERTION4

挿入データの4を指定します。
設定と動作例については、下を参照ください。

挿入データ 4

Position 位置 4 BCZ

(範囲:00₁₀-48₁₀)

Data1 データ 1 ABR

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

Data2 データ 2 ABS

(範囲:00₁₆-FF₁₆アスキーコード)

設定例 バーコードデータが“1234567”の場合に以下の内容を付加させる場合の例

	位置	データ1	データ2
挿入1	2	A	B
挿入2	5	C	D

- 1) 設定開始
- 2) 位置1 0 2 設定
- 3) データ1 4 1 設定 データ2 4 2 設定
- 4) 位置2 0 5 設定
- 5) データ1 4 3 設定 データ2 4 4 設定
- 6) グループ挿入 1 2 設定
出力内容 “1 2 AB 3 4 5 CD 6 7”
 - ① グループ挿入 0 1 設定
出力内容 “1 2 AB 3 4 5 6 7”
 - ② グループ挿入 1 1 設定
出力内容 “1 2 AB AB 3 4 5 6 7”
 - ③ グループ挿入 0 0 設定
出力内容 “1 2 3 4 5 6 7”
- 7) 設定保存終了

- 設定の開始
 挿入位置1に2を指定
 挿入データ1に“AB”を設定
 挿入位置2に5を指定
 挿入データ1に“CD”を設定
- 挿入データ1と2を指定（1と2は逆も可）
 挿入データ0と1を指定（0と1は逆も可）
 挿入データ1と1を重複して指定
 挿入データに0を指定して解除が行える
- 設定した内容を保存して終了

設定中断



設定終了



情報の付加

**CODE ID TRANSMISSION**

読み込んだバーコードの種類を転送したい場合には **有効** に設定してください。

バーコードの種類は、**P 6**に示す表にもとづき 1 文字の英字に変換され、読み込まれたバーコードデータに付加されて転送されます。

コードIDの転送

Disable **無効** IBA ★

 Enable **有効** IBB


CODE ID POSITION

上記コードIDの転送する位置を指定してください。

バーコード前が指定された場合には、読み込まれたバーコードデータの前に追加され、**バーコード後**を指定した場合には読み込まれたバーコードの後に追加されます。

コードIDの位置

Before Code **バーコード前** ICA ★

 After Code **バーコード後** ICB


LENGTH TRANSMISSION

読み込んだバーコードの長さを転送したい場合には **有効** に設定してください。

バーコードの長さは、2桁の数字にて転送されます。

長さ情報の転送

Disable **無効** IKA ★

 Enable **有効** IKB


CODE NAME TRANSMISSION

読み込んだバーコードの種類を名称として転送したい場合には **有効** に設定してください。

通常はコードIDで済むと思われませんが、視覚的に把握したい場合や、未定義の種類を読み込んでしまった場合に利用すると便利です。

コードの種類は、バーコードデータの前へ“(”と“)”にはさまれ付加されます。

コード名の転送

Disable **無効** IJA ★

 Enable **有効** IJB


予備

Disable **無効** IDA ★

 Enable **有効** IDB


設定中断



設定終了



CODE 39フルアスキー対応表

CODE39 をフルアスキー表記する場合には、英数字と一部の記号を除き 2 文字で 1 文字を表現する事となり、キャラクターでは無い制御キーの送出も可能となります。

ご利用時は、以下の対応表を用いてバーコードをコーディングして下さい。

コーディング例 1 2 3 \$ の場合は、*123/D* となります。
Alt + A を送信する場合は、*%EA* となります。

ASCII	CODE39	ASCII	CODE39	ASCII	CODE39	ASCII	CODE39
Null	%U	SP	SPACE	@	%V	`	%W
Up	\$A	!	/A	A	A	a	+A
Down	\$B	"	/B	B	B	b	+B
Left	\$C	#	/C	C	C	c	+C
Right	\$D	\$	/D	D	D	d	+D
PgUp	\$E	%	/E	E	E	e	+E
PgDn	\$F	&	/F	F	F	f	+F
	\$G	'	/G	G	G	g	+G
Bs	\$H	(/H	H	H	h	+H
Tab	\$I)	/I	I	I	i	+I
	\$J	*	/J	J	J	j	+J
Home	\$K	+	/K	K	K	k	+K
End	\$L	,	/L	L	L	l	+L
Enter	\$M	-	-	M	M	m	+M
Inset	\$N	.	.	N	N	n	+N
Delete	\$O	/	/O	O	O	o	+O
	\$P	0	0	P	P	p	+P
F1	\$Q	1	1	Q	Q	q	+Q
F2	\$R	2	2	R	R	r	+R
F3	\$S	3	3	S	S	s	+S
F4	\$T	4	4	T	T	t	+T
F5	\$U	5	5	U	U	u	+U
F6	\$V	6	6	V	V	v	+V
F7	\$W	7	7	W	W	w	+W
F8	\$X	8	8	X	X	x	+X
F9	\$Y	9	9	Y	Y	y	+Y
F10	\$Z	:	/Z	Z	Z	z	+Z
Esc	%A	;	%F	[%K	{	%P
F11	%B	<	%G	¥	%L		%Q
F12	%C	=	%H]	%M	}	%R
Ctrl+	%D	>	%I	^	%N	~	%S
Alt+	%E	?	%J	_	%O	DEL	%T

数値設定用コード

本スキャナーを設定する際に、16進数にてキャラクタコードを入力する場合や、数値（位置や文字数等）を入力する場合があります。

設定を行う機能のバーコードを読んだ後に、以下の表より数字を2桁読み込み最後に下に用意されている設定を読み込み数値の確定をしてください。

0		%00
1		%01
2		%02
3		%03
4		%04
5		%05
6		%06
7		%07
SET 設定 		%OK

8		%08
9		%09
A		%0A
B		%0B
C		%0C
D		%0D
E		%0E
F		%0F
SET 設定 		%OK

アスキーコード表（キャラクタコード表）

H L	制御記号部		キャラクタ部						
	0	1	2	3	4	5	6	7	
0	Null		SP	0	@	P	`	p	
1	Up	F1	!	1	A	Q	a	q	
2	Down	F2	“	2	B	R	b	r	
3	Left	F3	#	3	C	S	c	s	
4	Right	F4	\$	4	D	T	d	t	
5	PgUp	F5	%	5	E	U	e	u	
6	PgDn	F6	&	6	F	V	f	v	
7		F7	'	7	G	W	g	w	
8	Bs	F8	(8	H	X	h	x	
9	Tab	F9)	9	I	Y	i	y	
A		F10	*	:	J	Z	j	z	
B	Home	Esc	+	;	K	[k	{	
C	End	F11	,	<	L	\	l		
D	Enter	F12	-	=	M]	m	}	
E	Insert	Ctrl+	.	>	N	^	n	~	
F	Delete	Alt+	/	?	O	_	o	DEL	

テストコード 1

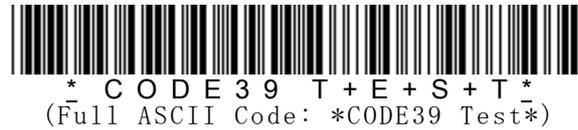
UPC-A



EAN-13 (ISBN) with Add-on 5



Code-39 (Full ASCII Code)



Interleaved 2 of 5



Code-93



Code-128 (C Type)



※ここに用意しましたバーコードは、スキャナーの設定評価用です。
 実際にお使いになられるバーコードを十分に読み込みテストをされた上でご利用ください。
 弊社では、誤読等が発生した場合には責任を負いかねますのでご了承ください。

テストコード2

Codabar/NW7



MSI/Plessey



CODE-11



UK/Plessey



Telepen



(Numeric: 57424942534251055774888916)

IATA



※ここに用意しましたバーコードは、スキャナーの設定評価用です。
 実際にお使いになられるバーコードを十分に読み込みテストをされた上でご利用ください。
 弊社では、誤読等が発生した場合には責任を負いかねますのでご了承願います。

■質問：EXCELや、Wordにての利用方法

◇回答：USB BARScan は、読み取ったバーコードの内容をキーボードの入力としてパソコンに通知するために、ご利用のソフトに限定がありません。

EXCEL であれば、現在カーソルがあるカラムに文字が入力されることになり、Word であれば現在のカーソルのある場所から挿入されます。(挿入モードの場合)

また、本スキャナーの工場出荷時は、読み取った内容を送信した後に、リターンを押した動作をさせております。

正しく説明しますと、EXCEL の場合にはバーコードが入った後に、下のカラムにカーソルが移り、Word の場合はバーコードが入力されたところで改行する事となります。

これらバーコード送出後のリターンキーの動作は、TAB キーの動作に変更したり、何もしないといった設定も本マニュアルを参照して設定することが可能です。

■質問：書籍管理に使用したいのですがバーコードの種類は何ですか？

◇回答：書籍に添付されているバーコードは、ISBN コードとなります。

バーコードの見た目（縞模様の構成）としては、JAN13 と同様です。

JAN13 を ISBN として意識するよう、スキャナーに設定が必要です。以下の手順にて設定が行えます。

- 1.P23 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P23 「ISBN/ISSN 変換」メニューより、「有効」[ENB]を読み込む
- 3.P23 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

上記設定を行わなくとも読み込み可能ですが、書籍のバーコードの横に印字されている数字と合わなくなる場合があります。

ここで ISBN コードに付いてふれておきます。

ISBN コードとは、書籍 1 冊 1 冊を分類するためのもので、International Standard Book Number の略で、ISBN として利用されるバーコードの最初は、978 から開始されます。

978 に続く 9 桁が ISBN コードです。9 桁の最初 1 文字が、国別番号で、2 桁目から 6 桁目が出版社番号・残り 3 桁が書名番号となります。また、ISBN の場合には、もう一つ 192 から始まるバーコードが追加され、ここに分類コードや、価格が入っている場合があります。

さらに、雑誌の場合には、11 から始まるバーコードが印字されており、このバーコードの中には、発行形態（月刊／週間／コミック等）・雑誌名・週番号・発行月・価格が入っています。

上記を運用のシステム側で意識する必要があります。

■質問：バーコード読み取りとPCS値の関係について

◇回答：PCS値とはバーコードシンボルのバーとスペースのコントラスト（明暗）を表す数値で、以下に示す弊社のHPで詳しく説明しております。

<http://www.technical.jp/handbook/chapter-7-3.html>

PCS値が大きい（1に近い）程、読み取りやすいバーコードとなります。（白と黒が鮮明である事になります）

ただし、バーコードリーダーのスペックで言いますと、逆となりPCS値が低い物から読める機種の方が高機能（分解能が高い）ということになります。（スキャナから見れば、鮮明でなくとも読み込めるとなる）

その他の条件として、1秒当りのスキヤニング回数やデコーダ（読み取った縞模様を解析する）の機能も重要です。

USB BARScan は、1秒間に 100 回ものスキヤニングを行いバーコードの検査をしております。また、読みやすさでは、バーコードの太いものと細いものの幅も関係します。通常 1：2.5 とも言われておりますが、太いものが細い物の 3 倍近くあると読みやすくなります。（CODE39 等でバーコードの太さが 2 種類しかない場合）

■質問：読み取り可能なバーコードの種類を教えてください

◇回答：読み込みが可能なコードは、P6に記載しております。

工場出荷時は、誤読防止のために一部のコードのみ読み取り可能としておりますので、P6の「各コードによる設定内容」に用意されている一覧表の「読込有効」欄のチェックマークをご参照ください。

チェックが無いバーコードは、スキャナに読み取りを許可する設定が必要になります。

■質問：読み取り可能なバーコードの長さはどれくらいですか？

◇回答：USB BARScan は、読み取り窓の長さが 70 ミリとなっております。

快適に読まれる為には、70 ミリ以下である必要があります。

但し、内容にもよりますが少し離れた状態では、75 ミリ程度までは読み取れる事もあります。

■質問：読み取り可能な最小の高さはどれくらいですか？

◇回答：1センチ以上が最適です。

基本的には、バーコードの長さの 15%以上または、各コードにて規定されている高さのうち大きい方以上の高さとなっております。

各コードによって規定されているようですが、多くのものが 6 ミリ以上に設定されているようで、6 ミリ以上であればある程度読み取れることとなります。

4 ミリ程度でも読み取りが可能ではありますが、バーコードの位置にスキャナの光を平行にうまくあわせないと読み取れない状態となります。

■質問：バーコード印刷はどのようにして行いますか？

◇回答：バーコードの印字には、印字専用のプログラムを利用することもできますが、弊社では、このようなお客様のために、バーコード用のフォントを作成して、無償で提供しております。

このフォントを利用しますと、EXCEL や WORD にてフォントをMSゴシックに変更すると同じように、バーコードにしたい部分をドラックしてフォントを変更することによりバーコードを簡単作成して印刷できます。

以下のURLをご参照頂きお試しいただけるようお願いいたします。

<http://www.technical.jp/handbook/chapter-font1.html>

※バーコードには色々と種類があり、その種類によっても取り扱える文字もかわりますので、以下のURLにて確認を行って下さい。

<http://www.technical.jp/handbook/chapter-4-1a.html>

FAQ

読み取り動作編（その1）

■質問：常時読み取りの状態に設定したい（バーコードが読めない）

◇回答：USB BARScan は、2重読み取りを防止するために、工場出荷状態ではバーコードを読み取るとランプが消え、本体下部のスイッチを行う事にて次のコードが読み取り可能となるよう設定されております。

この設定は、本マニュアルを利用して設定変更が可能となっております。以下の手順にて設定が行えます。（ページは必要なコードのページ）

- 1.P16 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P16 「読み取り状態」メニューより、「常時読込」[CAG]を読み込む
- 3.P16 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

設定を行った後は、必ず確認作業を行ってから運用をさせていただきます。

■質問：バーコード読込時の音量を変更したい

◇回答：ラウンドネスの設定を行う事にて可能です。

音の大きさが10段階用意されていますので、01～10にて指定してください。

音の設定は、01が最小で、大きくなると音も大きくなります。

工場出荷状態では、05が設定されています。

この設定は、本マニュアルを利用して設定変更が可能となっております。以下の手順にて設定が行えます。

- 1.P17 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P17 「読み込み状態」メニューより、「ラウンドネス」[BAC]を読込む
- 3.P59 「数値設定用コード」より、「十の桁」を読み込む
- 4.P59 「数値設定用コード」より、「一の桁」を読み込む
- 5.P59 「数値設定用コード」より、「設定」を読み込む
- 6.P17 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

設定を行った後は、必ず確認作業を行ってから運用をさせていただきます。

■質問：JANコードは読めるが、NW-7を読むことができない。

◇回答：USB Barscan では、誤読を減らすために各種の設定が施されております。

その中に、バーコードの最小文字数があります。

工場出荷の状態では、NW-7の最小文字数は4文字となっております。読まれようとしている内容が1文字しかなかったために読めなかった事になります。

この設定を、1に変更することにて読み込みが可能となります。

この設定は、本マニュアルを利用して設定変更が可能となっております。

以下の手順にて設定が行えます。

- 1.P38 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P38 「特殊設定」メニューより、「最小文字数」[BBQ]を読み込む
- 3.P59 「数値設定用コード」より、十の桁として「0」を読み込む
- 4.P59 「数値設定用コード」より、一の桁として「1」を読み込む
- 5.P59 「数値設定用コード」より、「設定」を読み込む
- 6.P38 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

設定を行った後は、必ず確認作業を行ってから運用をさせていただきます。

■質問：CODE128でTABやカーソル移動を単体でバーコード入力したい

◇回答：工場出荷の状態では行えませんが、CODE128はフルアスキーの表記が可能となっておりますので、TABキーを制御記号として記述し、これを読み込む事にて実現できます。

CODE128は、3種類のコード体系を持っていてコードAというものであれば制御記号も出力が可能となります。

以下の弊社のHPにてCODE128について説明をしております。

<http://www.technical.jp/handbook/chapter-7-1c.html>

この説明を見ますと、TABは73番目のコードである事がわかりますが、カーソル移動については制御キーのため記載が無いとなってしまいます。

P59を参照頂き、制御記号をどのコードに置換するかを憶測します。

ページ下に記述してあります「アスキーコード表」の「制御記号部」を参照していただきますと、弊社HPで説明している64番目のコードがNULLとなっており、これより先が対応していることとなります。

これにより、SOHが↑・STXが↓・ETXが←・EOTが→であることが推測されます。

但し、これを読み込み可能とする為には、バーコード中の制御記号の意識を有効としてあげる設定が必要です。USB BarScanでは、この機能を「ファンクションキーの擬似」と称してしまっていて、以下の手順でこれを有効にしてください。

- 1.P10 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P10 「ファンクションキーの擬似」メニューより、「有効」[DBB]を読み込む
- 3.P10 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

上記設定にて、サンプルに作成しました制御コードのバーコードを読んでもいただければ、TABやカーソル移動が実現できます。

ただし、工場出荷状態では、バーコードを読み込んだ後にリターンを行う設定が入っていますので、この用途では邪魔な事になると思われます。

読み込み後のリターンを付加する機能は、ポストアンプルの機能として提供されています。不必要な場合には、以下の設定を行いリターンが付加されないようにしてください。

- 1.P53 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P53 「ポストアンプル」メニューより、「無効」[IFA]を読み込む
- 3.P53 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

※上記設定を行いますと、数字等の通常のバーコードを読み込んだ場合には、末尾にリターンキーが付加されなくなりますので、ご注意ください。

FAQ

読み取り動作編（その3）

■質問：CODE39 のフルアスキーが読めない、また、制御コードの転送方法は？

◇回答：2個の質問が混在していますが、おのおのの設定が必要になります。

USB BARScan は、工場出荷の状態では CODE39 は読み込み可能ですが、一般的なコードとなっており、フルアスキーを意識するよう以下の設定を行う必要があります。

- 1.P27 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P27 「フォーマット形式」メニューより、「フルアスキー」[FBB]を読み込む
- 3.P27 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

この設定を行った事にて、フルアスキーのキャラクタ（文字）は表現が可能となりますが、特殊な記号データ(0x01～0x1F)までを制御キーとしてPCに通知することはできませんので、以下の設定を行い制御記号を有効に変更してください。

USB Barscan では、この機能を「ファンクションキーの擬似」と称しています。

- 1.P10 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P10 「ファンクションキーの擬似」メニューより、「有効」[DBB]を読み込む
- 3.P10 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

余談ではありますが、CODE39 のフルアスキーの場合ですと英数字と一と、については1文字で読めますが、それ以外のものは2文字で1文字（記号含む）を表します。制御キーの対応表につきましては、**P 58**を参照願います。

■質問：読取後の改行(CR/LF)キーを TAB キーに変更したい

◇回答：バーコード読み取り後に改行を付加している機能は、ポストアンブルデータとして実現をしております。

工場出荷状態では、改行を付加しておりますので、「ポストアンブルの転送」は「有効」に設定されています。

また、転送するデータは「データ1」がCR(0x0D)で、「データ2」がLF(0x0A)に設定されていますので、このデータ1とデータ2を変更します。実際はデータ1にTABを設定し、データ2は無しと設定を行います。

以下の手順にて設定が行えます。

- 1.P53 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P53 「ポストアンブルデータ」メニューより、「データ1」[ABB]を読み込む
- 3.P59 「数値設定用コード」より、「0」を読み込む（TABコードの十の桁）
- 4.P59 「数値設定用コード」より、「9」を読み込む（TABコードの一の桁）
- 5.P59 「数値設定用コード」より、「設定」を読み込む
- 6.P53 「ポストアンブルデータ」メニューより、「データ2」[ABC]を読み込む
- 7.P59 「数値設定用コード」より、「0」を読み込む（何もしないを意味）
- 8.P59 「数値設定用コード」より、「0」を読み込む（何もしないを意味）
- 9.P59 「数値設定用コード」より、「設定」を読み込む
10. P53 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

設定を行った後は、必ず確認作業を行ってから運用をさせていただきます。

FAQ

その他

■質問：USB BARScan とキーボードを同時に使用可能ですか？

◇回答：USB BARScan は、読み込まれたバーコードの内容をキー入力されたと同じ扱いにて動作しているソフトに渡します。

ご質問であるキーボードとの併用ですが、まったく問題はありません。

PS2 タイプはもちろんのこと、USB タイプのキーボードをご利用の場合でも、どちらも正常に動作し共存が可能ですのでご安心してご利用願います。

■質問：スキャナーを接続したらフルキーボードの記号の配置が変わった

◇回答：Windows2000 をご利用のお客様で、USB BARScan を初めてPCに接続した場合に発生する事象です。

以下の手順にて、キーボードタイプを変更(戻して)からご評価ください。変更した後は、再起動を行っても同様の事象が発生しないと思われず。Windows2000 のキーボード変更手順は以下の手順となります。

- 1.[コントロールパネル]-[システム]を開く。
- 2.タブコントローラのハードウェアを選びデバイスマネージャを開く。
- 3.キーボードのプロパティを開きタブコントローラのドライバを選択。
- 4.ドライバの更新ボタンを押す。(ドライバのウィザードが開く)
- 5.[このデバイスの既知のドライバ]を表示して、その一覧から選択する]を選び[このデバイスのハードウェアをすべて表示]を選択。
- 6.日本語 PS/2 キーボード(106/109 Ctrl+英数)を選択。
※必要に応じて選択。(一般的な例です)
- 7.警告メッセージが表示されるが[はい]を選択して再起動。

上記作業にて再起動を行った後に、スキャナーの動作とキーボードの動作の確認をお願いします。

■質問：起動音を消したい

◇回答：USB BARScan 電源投入時の起動音は下記の手順で消去が可能です。

- 1.P14 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P14 「起動音」メニューより、「無効」[CBA]を読み込む
- 3.P14 ページ右下の「設定保存終了」を読み込む

設定を行った後は、必ず確認作業を行ってから運用をさせていただきます。

■質問：フルリセットをしたい

◇回答：USB BARScan を購入時(工場出荷)の状態に戻したい場合や、読み込み時にエラーが発生した場合などは、P9の「工場出荷」バーコードを利用します。

以下の手順にて操作してください。

- 1.P9 ページ右上の「設定開始」を読み込む
- 2.P9 「工場出荷」のバーコードを読み込む

全ての設定が工場出荷状態となりますので、ご希望の動作を行うか必ず確認作業を行ってから運用をさせていただきます。